

各 位

会 社 名 株 式 会 社 倉 元 製 作 所
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 鈴 木 聡
(J A S D A Q ・ コ ー ド 5 2 1 6)
問 合 せ 先
役 職 ・ 氏 名 取 締 役 経 営 管 理 部 長 関 根 紀 幸
電 話 0228 32 5111

特別損失の発生及び平成 19 年 12 月期通期（連結・個別）業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 19 年 12 月期決算において下記のとおり特別損失を計上することとなりましたので、その概要をお知らせするとともに、最近の業績動向などを踏まえ、平成 19 年 9 月 27 日付「特別損失の発生及び平成 19 年 12 月期中間決算短信の一部修正並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました平成 19 年 12 月期通期業績予想（平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日）を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

固定資産除却損

当社が SKPK 社* 向け技術構築用として導入しておりました大型ガラス基板加工設備について、技術構築が終了したものの今後量産での使用見込みがないと判断したため、個別に 462 百万円、連結に 411 百万円を計上いたします。

固定資産減損損失

当社 BP センター（岩手県北上市）における光学フィルタ製造の機械装置及び当社三重工場（三重県津市）における新規事業用機械装置などの資産について、これまでの業績の推移並びに今後の計画を検討した結果、固定資産の減損会計基準に従い減損処理をいたします。その額は個別において 687 百万円、連結では 853 百万円であります。

投資有価証券売却損

当社保有の有価証券の売却に伴い、投資有価証券売却損として個別に 124 百万円、連結に 124 百万円を計上いたします。

関係会社株式売却損

当社は平成 19 年 6 月に SKPK 社*、同年 12 月に子会社東海工業(株)及び同(株)LADVIK の株式譲渡を行いました。これらの株式の売却により関係会社株式売却損として個別に 1,075 百万円、連結に 666 百万円を計上いたします。

投資有価証券評価損

当社は、光学薄膜製造装置メーカーの株式を投資有価証券として保有しておりましたが、当該社の業績が海外拠点への生産シフト等から株式取得時の計画を大幅に下回る状態が続いているため投資有価証券評価損として個別に 164 百万円、連結に 164 百万円を計上いたします。

棚卸資産評価損

当社子会社(株)倉元マシナリーが SKPK 社* 向けに生産した大型研磨機等のガラス基板加工設備について、棚卸資産評価損として連結に 1,360 百万円を計上いたします。

貸倒引当金繰入額

当社から子会社(株)倉元マシナリーへの貸付金の回収が遅延しているため、貸倒引当金繰入額として個別に 147 百万円を計上いたします。

関係会社支援損失引当金繰入額

SKPK 社* 向け大型研磨機等のガラス基板加工設備の棚卸資産評価損計上に伴い当社子会社(株)倉元マシナリーが債務超過となったため、関係会社支援損失引当金繰入額を個別に 1,408 百万円を計上いたします。

和解金等

SKPK 社* に対する貸付金 25 億円等の債権の当社への返済に関し、和解金をもって決着することといたしました。弁護士費用等を含め和解金等として個別に 412 百万円、連結に 412 百万円を計上いたします。

上記等の特別損失の発生に伴い、平成 19 年度 12 月期において特別損失として、個別に 4,518 百万円、連結に 4,084 百万円を計上いたします。

SKPK 社* について

当社は、平成 17 年 11 月にドイツ SCHOTT 社と合併で韓国に大型 TFT ガラス基板加工の SCHOTT KURAMOTO Processing Korea Co.,Ltd. (略称 SKPK 社) を設立いたしました(平成 17 年 11 月 24 日公表)。その後、平成 19 年 6 月に当社所有の全 SKPK 社株式(発行済株式総数の 25%) を SCHOTT 社に譲渡しております(平成 19 年 6 月 6 日公表)。

2. 業績予想の修正

修正内容

平成 19 年 9 月 27 日付「特別損失の発生及び平成 19 年 12 月期中間決算短信の一部修正並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました平成 19 年 12 月期(連結・個別)通期業績予想を下記のとおり修正いたします。

平成 19 年 12 月期の連結業績予想(平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日)

〔連結〕

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想(A) (平成 19 年 9 月 27 日公表)	30,000	400	200	1,600	165 円 53 銭
今回修正(B)	30,044	917	481	3,192	322 円 68 銭
増減額(B-A)	44	517	281	1,592	157 円 15 銭
増減率	0.1%	129.3%	140.5%	-	-
(ご参考)前年同期実績 (平成 18 年 12 月期)	36,830	43	289	4,123	448 円 36 銭

平成 19 年 12 月期の個別業績予想（平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日）

〔個別〕

（単位：百万円）

	売上高	加工売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想(A) (平成 19 年 9 月 27 日公表)	19,500	10,500	200	0	1,500	155 円 19 銭
今回修正(B)	19,467	10,480	276	415	4,689	474 円 04 銭
増減額(B-A)	33	20	476	415	3,189	318 円 85 銭
増減率	0.2%	0.2%	-	-	-	-
(ご参考)前年同期実績 (平成 18 年 12 月期)	22,964	11,952	844	17	3,878	421 円 70 銭

修正理由

〔連結〕

連結の通期の売上高につきましては予想比 0.1%増とほぼ計画通りとなる見込みであります。営業利益及び経常利益につきましては、精密研磨布・精密スプリング等の精密加工分野の連結子会社の受注が好調に推移したことにより、個別の収益面での悪化を吸収した上でなお予想額に対し増額となる見込みであります。また、当期純損益は個別の大幅な特別損失計上の影響を受け、赤字幅が 1,592 百万円拡大し 3,192 百万円の損失となる見込みであります。

〔個別〕

個別の通期の売上高及び加工売上高は、予想比で各 0.2%減とほぼ計画通りとなる見込みであります。しかしその内訳は、切面・研磨加工等の [液晶ガラス基板加工品] が大幅に増加したのに対し、特に下期において [成膜ガラス基板] が BM 膜の予想を上回る受注減の影響などにより、収益面では厳しい結果となる見込みであります。

営業損益は、社外倉庫費用削減に向け棚卸資産の圧縮を図ったことや新規事業として取組んでいた研究開発費の増加により、予想額に対し 476 百万円未達の 276 百万円の営業損失に、経常損益も 415 百万円未達の 415 百万円の経常損失となる見込みであります。

当期純損益におきましては、前述「1. 特別損失の発生及びその内容」に記載いたしましたとおり、特別損失 4,518 百万円を計上することとなったため、予想額に対し 3,189 百万円未達の 4,689 百万円の当期純損失となる見込みであります。

以上